

病気編



急な冷え込みが体にこたえる～

心臓病

「寒暖差が、心臓の大きな負担に。持病のある猫はとくに注意して！」

猫に比較的好く見られる心臓病が、心筋症です。咳、体重減少、呼吸困難などの症状で、発見されることが多いです。完治することはないので、投薬と生活管理で症状をコントロールしていくことになります。冬場、急に冷え込むと、全身の血管が収縮して血圧が上昇し、心臓に大きな負担がかかります。心臓に持病があると、急激な症状悪化で急死することもあるので、とくに気温の変化に注意してください。

関節のトラブル

「運動不足で筋肉が衰えて、関節を痛めたり、寒さが痛みを引き起こすことも」

猫は犬ほど関節のトラブルは多くありませんが、高齢になれば足腰も衰えてきます。とくに寒いときは運動量も減って、筋肉も弱りがちに。そうなると、筋肉が関節をしっかり支えられないため、関節を痛めやすくなります。また、痛みを感じる末梢神経は、寒くなるとより敏感になり、関節の痛みをいっそう悪化させることもあります。

泌尿器の病気

「飲水量が減ったり、トイレを我慢したりすると、発症のリスクが高まります」

猫は、膀胱炎や尿路結石などの泌尿器系の病気にかかりやすいですが、飲水量が減る冬は、さらに注意が必要です。猫がいつでも自由に飲めるように、複数の水を用意してあげましょう。尿路結石は食事内容が大きく影響するので、ミネラル量が適切に調整された、品質の良いフードを与えることも大切です。また、冬は部屋を閉め切ることが多く、猫が自由にトイレに行けなかったり、トイレの設置場所が寒くて、トイレに行くのをためらったり…と、排尿をがまんして膀胱炎になることも。猫が気持ちよく排尿できる環境を整えてください。

いつでもお水が飲めるとうれしいな～



ダイエット頑張ります～

万病の元 肥満

「肥満は様々な生活習慣病の引き金になります」

冬は寒さから体を守るために、脂肪を蓄えやすくなります。また、猫は寒さが苦手なので、じっとしていることが増え、運動不足から肥満の原因に。肥満は、心臓病、関節疾患、糖尿病など様々な生活習慣病を引き起こす健康の大敵です。体重管理をしっかり。

呼吸器の病気

「空気が乾燥して、鼻やのどのバリア機能も弱まっています」

冬に風邪やインフルエンザが流行るのは、空気の乾燥によって、鼻やのどの粘膜のバリア機能が低下し、細菌やウイルスに感染しやすくなるからです。猫には人のような風邪や季節性インフルエンザはありませんが、猫ウイルス性鼻気管炎、猫カリシウイルス感染症、クラミジア感染症などの「猫風邪」と総称される感染症があります。鼻水やくしゃみ、咳などを伴い、気管支や肺に炎症を起こします。子猫はとくにかかりやすく注意が必要ですが、いずれもワクチンで予防できます。

ワクチンで防いでね



ウイルス感染症

「寒さで体温が下がり、免疫力が低下します。ワクチン接種を忘れずに」

冬は気温の低下や空気の乾燥により、ウイルスが飛散しやすくなります。また、寒さで体温が下がり、体の免疫も低下しがちです。猫も体調を崩しやすく、感染症のリスクが高まる季節といえます。ウイルス感染症のなかには命にかかわる病気もあるので、ワクチン接種を忘れずに受けておきましょう。

ワクチン接種で防げる感染症

- 白血球が極端に減少し、発熱、激しい嘔吐など **猫汎白血球減少症(猫伝染性腸炎)**
 - 白血病や、免疫低下により様々な病気の原因に **猫白血病ウイルス感染症(FeLV)**
 - 発熱、鼻水、くしゃみなど、猫の「鼻風邪」とも **猫ウイルス性鼻気管炎(FVR)***
 - 目やにを伴う慢性的結膜炎の他、鼻水やくしゃみなど **クラミジア感染症***
 - 肺炎を併発すると危険、猫の「インフルエンザ」とも **猫カリシウイルス感染症(FCV)***
 - 発症すると免疫不全を起こし、「猫エイズ」に **猫免疫不全ウイルス感染症(FIV)**
- *マークは呼吸器症状を示すもの

寒い季節に気をつけたい病気

- ウイルス感染症
- 呼吸器の病気
- 心臓病
- 関節のトラブル
- 泌尿器の病気
- 万病の元・肥満

お答えいただいた先生
おおにし動物クリニック
大西 徹秀 先生



季節の変わり目は、お腹をこわして来院する子が増えますね。寒くなると持病をもっていたり、高齢の子は体調をくずしやすいので、よく気をつけてあげてください。

秋から冬に気をつけたい病気！

秋から冬にかけて寒くなると、かかりやすかったり、症状が悪化しやすい病気があります。正しい知識を持って、愛猫を守ってあげましょう。

獣医師さんの健康講座

暖房器具に注意

「ストーブで毛を焦がしたり、ホットカーペットなどでの低温やけども要注意！」

暖房器具によるやけどや事故も心配です。ストーブの周りを柵で囲ったり、人がそばにいられないときはスイッチを切るなどの対処を。ホットカーペットやカイロなどに長く密着させていると、低温やけどをすることがあります。毛布を敷いたり、カイロをタオルで包むなどして直接体に触れないようにしましょう。また、猫は温かいお風呂のフタの上が大好きですが、浴槽に転落して溺れたり、お湯でやけどをしないよう、浴室は立ち入り禁止に。



危ないでやめましょう！

寒い季節に気をつけたい生活ケア

- 換毛期のケア
- 寒さ対策
- ノミ対策
- 暖房器具に注意
- 誤飲・誤食に注意
- 年末年始の体調不良



季節が変わると、愛猫の生活環境も大きく変わります。思わぬ事故や体調不良を引き起こさないよう、気をつけてあげましょう。

獣医師さんの健康講座
秋から冬に気をつけたいこと！

誤飲・誤食に注意

「危険なものを口にする機会が増えます」

家の中には、猫が口にする危険なものがたくさんあります。例えば、ポインセチアやシクラメンなどの身近な植物も中毒を起こす原因に。その他、おもちゃの破片、ビニール、針や糸、たばこ、薬など。猫の場合、ひも状のものはとくに危険です。おいしそうなおいする高級ハムのタコ糸などもその一つ。贈答品の多いこの時期は、とくに要注意です。舌にあるザラザラの突起がのどの奥に向かって生えているため、口にしたひもを吐き出そうとすればするほど、奥に入ってしまうのです。誤飲・誤食は命に関わることもあります。危険なものを放置しないよう、しっかり管理してください。



すっごく楽しいんだけど…

換毛期のケア

「ブラッシングで換毛を促進。健康な皮膚と被毛のためには、食事管理も大切です」

ダブルコートの猫種は、春と秋に換毛期があります。秋は夏毛が抜けて、下毛が密生した冬毛へと生え替わります。こまめなブラッシングで抜け毛を取り除くとともに、被毛や皮膚の新陳代謝を高めましょう。健康な皮膚と被毛には栄養管理も大切です。良質なタンパク質をたっぷり含み、オメガ3とオメガ6脂肪酸のバランスの良いフードを与えましょう。



寒いのが苦手なんだ～

寒さ対策

「温度差が体の負担に。夜間や屋外の防寒対策を心がけて」

極端な温度差は体に負担になります。猫は寒さが苦手です。完全室内飼育でも、夜間、暖房を切った後の急激な冷え込みなどには、十分に気をつけましょう。

おなかが痛くなっちゃったのー



年末年始の体調不良

「来客が多く、飼い主さんの目が届きにくいので、体調不良に気をつけて」

年末年始は忙しくて、飼い主さんの目が届きにくい時期です。来客が増えて、猫がストレスを感じたり、パーティでごちそうをおすわけされてお腹を壊したり…。普段と違う環境のため、猫が体調を崩しやすいので注意しましょう。

年末年始の休診日を確認しておきましょう。

かかりつけの動物病院の、年末年始の休診日を確認しておきましょう。また、緊急時に対応してもらえる救急病院も調べておくと安心です。

あったか～い♪



ノミ対策

「快適な室内では、ノミは年中繁殖可能。通年予防がおすすめです」

ノミは気温13℃以上、湿度50%以上で繁殖します。つまりエアコンでコントロールされた室内環境では、一年中繁殖が可能です。いったんノミを持ち込むと、根絶させるのは大変ですから、できれば通年予防の方が安全といえます。